

# シナイ通信 第29号

平成28年10月31日

NPO 法人 シナイモツゴ郷の会



TEL/FAX 0229-56-2150

MAIL [shinaimotsugo93ks@ybb.ne.jp](mailto:shinaimotsugo93ks@ybb.ne.jp)

<http://www.geocities.jp/shinaimotsugo284/>

989-4102 宮城県大崎市鹿島台木間塚

字小谷地 504-1 鹿島台公民館内



## 目 次

ページ

表紙 旧品井沼周辺ため池群の取り組み(写真)

2016 年上期の活動報告 高橋清孝

2～5

水辺の自然再生共同シンポジウム (11/26 大崎市古川開催)

6～8

里親便り (寄稿) : シナイモツゴの里親として

鹿島台第二小学校 那須 孝 9

2016 年里親活動の報告 二宮 景喜

10～11

シナイモツゴ郷の米の紹介 シナイモツゴ郷の米作り手の会

12～13

アメリカザリガニ駆除に参加して 浅野 功

14～15

移動研修会に参加して「里山と浄土庭園」 門間 忠良

16～17

2016 伊豆沼バスバスターズに参加して 長谷川 政智

18～19

渡邊喜夫さん追悼 事務局

20

水辺の仲間たち⑬ 植物編 安住 芳朗

21～22

シナイモツゴ BBC 通信の紹介 事務局

23

表紙写真 旧品井沼周辺ため池群の取り組み

左：急増したシナイモツゴ、 右上：アメリカザリガニ連続捕獲装置見学会

右下：連続捕獲装置 1 基で捕獲したアメリカザリガニ約 200 尾)

# アメリカザリガニ**連続捕獲装置が完成し**

## 省力化しながらアメリカザリガニの**低密度管理に成功**

## シナイモツゴ里親制度と郷の米認証制度で生息池増大

## 周辺河川でも生き物たちがよみがえった！

2016 年度上期の活動の紹介（4～9 月）

### 1) アメリカザリガニ連続捕獲装置が完成

アメリカザリガニは水草や二枚貝を捕食します。旧品井沼周辺ため池群では 2000 年以降アメリカザリガニが大繁殖したため、水草や二枚貝が激減し全滅状態に陥ったこともあり、これが原因でゼニタナゴが全滅したため池もあります。移植したゼニタナゴの安定した繁殖環境を確保するため、アメリカザリガニを効率的に捕獲するための連続捕獲装置を試作し、現地に設置し捕獲試験を行ってきました。この装置はアメリカザリガニを誘引する上部の明室と侵入したアメリカザリガニを収容する暗室の 2 部屋かで構成されています（写真 2 左）。水上に設置した自動給餌機（写真 2 右）から、ダクトを通じて明室上部の餌投入口へ 1 日 10～50g のコイ養殖用餌を投与します。アメリカザリガニは餌に誘引され明室側面の入口から侵入し、明室内で餌を食べると下部の暗室へ移動し捕獲装置に収容されます。捕獲装置を 1 週間設置した場合、水温や生息密度により変化するが 1 基当たり 50～200 尾を捕獲することができました（写真 3）。試験池において当会がこの捕獲装置を主体として 4～10 月に捕獲した結果、池に生息するアメリカザリガニの 8 割以上を捕獲して生息密度を低く保つことができました。



写真 1 左：アメリカザリガニ連続捕獲装置の捕獲器、右：その水上に設置した自動給餌機

この装置は 1 基でアナゴカゴ 5 基以上の機能を有しており、20～30 a 程度のため池であれば 4～5 基でアメリカザリガニを低密度管理することが可能です。この場合の作業時間は 1 週間に一度、1



時間程度であり、大幅な省力化が可能となった。同時に週末1回の作業で捕獲作業を周年継続することができるようになったことから、多くの自然保護団体がアメリカザリガニ対策と取り組むことが可能になりました。この装置を全国で使用可能にするため、企業と提携して特許申請し、2017年度内に製品の提供を目指して、現在改良と試験を繰り返しています。



写真 2 左：連即捕獲装置の現地見学会（9月17日）、右：見学会で回収した捕獲装置の暗室、1基で196尾のアメリカザリガニを捕獲した（9月17日）

## 2) ゼニタナゴ移植放流技術の開発

ゼニタナゴを移植した試験池では8月下旬からゼニタナゴが捕獲され9～10月には多数のゼニタナゴを捕獲しました。全長7～8cmの個体が多かったが中には9cmを超える大型個体も見られ、2015年生まれが主体だが2014年生まれも混じっているようでした。

調査ではシナイモツゴが、これまで経験したことが無いほど、多数捕獲されました。アメリカザリガニの低密度管理により、シナイモツゴの産卵が順調に行われ繁殖成功率が高まっている可能性があります。



写真 3 試験池で捕獲したゼニタナゴ（左）とシナイモツゴ（右）



#### 4) 移植用シナイモツゴ稚魚の飼育と環境教育

宮城県内の小学校で小学生が里親として放流用シナイモツゴを卵から1年間飼育し、6月までに約700尾の稚魚を育てました。里親小学校は大崎市鹿島台小学校、美里町立小牛田小学校、東松島市立桜華小学校、石巻市立開北小学校の4校です。同時に里親の小学生を対象にシナイモツゴ郷の会会員が特別授業を行い、自然の大切さについて講和しました。



写真4 里親小学校の校庭池へシナイモツゴの卵が産み付けられた産卵ポットを収容（左：6月鹿島台小学校）、里親小学校で里親を対象に特別授業で自然の大切さを講和する当会のインストラクター（右）

#### 5) シナイモツゴ稚魚放流会

里親小学生が1年間育てたシナイモツゴ稚魚の内600尾を6月に里親と地域住民が共同でバス駆除したため池へ放流しました。

#### 6) 住民の理解を深める生き物観察会と学習会の開催



写真5

右上 おおさき生き物クラブの小学生メンバーが参加した小川の生き物観察会（6月）

写真左 地元住民主催の水田水路の生き物観察会（8月）

一般市民や住民の理解を深めるため小学生と父兄を対象に活動対象地域の小川で生き物観察会を実施し、川に入ってシナイモツゴ、メダカ、ギバチ、フナ、ドジョウなどに直接触れて観察し、地域ぐ



るみで取り組んだ自然再生の成果を実体験してもらいました。6月と8月にはおおさき生き物クラブの小学生メンバーが参加した小川の生き物観察会（6月）と地元住民主催の水田水路の生き物観察会を開催しました。8月に開催した小川の生き物観察会では参加した小学生が絶滅危惧種オゼニタナゴ、スナヤツメ、ギバチ、メダカ、ジュズカケハゼを採集、参加者はため池のブラックバス退治により下流の小川の自然が豊かになったことを実感しました（写真7左、8月開催の生き物観察会）。さらに、9月開催の小川の生き物観察会ではウナギの大型魚が2尾捕獲され、参加者を驚かせました（写真7右、9月開催の小川の生き物観察会）。この川ではブラックバスが姿を消し、エビ類や小魚が増加した結果、2013年からウナギが出現するようになりました。



写真6 生き物観察会で採集した魚類のリスト、絶滅危惧種は4種（左）。ウナギの大型魚が2尾採集され、参加者を驚かせた（右）。ため池のブラックバス完全駆除により川からブラックバスが姿を消し、小型魚類が増加した結果、ウナギ大型魚が出現するようになった。

## 7) ため池を守る農業者を支援

生き物ブランド米「シナイモツゴ郷の米」の栽培状況を現地で確認し（写真8左）、シナイモツゴ郷の米を認証しました。親しみやすいイメージの新しい認証ラベルを作成（写真8右）、10月から発売されるシナイモツゴ郷の米のパッケージに貼付されます。

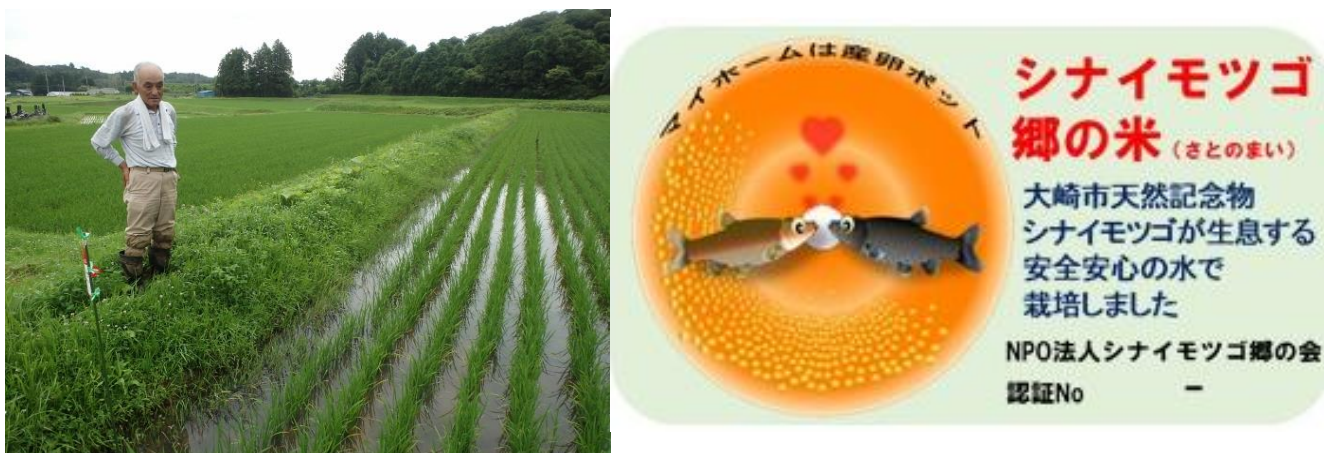


写真7 シナイモツゴ郷の米の現地確認調査（左）、新しい認証ラベルを発行（右）。

## 8) ザリガニ魚醤（ぎょしょう）作成技術の開発

ザリガニ魚醤の製品化を目指し、宮城県内の醸造メーカーの指導を受けて、麴を使った魚醤の作成

と取り組んでいます。現在、醸造中。また、宮城県水産技術総合センターの協力を得てアメリカザリガニのせんべいの作成を試みました（写真9 右左）。8月には試食会を開催し、改善点などを検討しました（写真右）。



写真8 試作したザリガニせんべい（左）、ザリガニせんべいの試食会（右）

## 水辺の自然再生共同シンポジウム 11/26 大崎市古川で開催

### 開催要領

#### ① テーマ

シナイモツゴ発見 100 周年、大崎市政 10 周年記念共同シンポジウム「里山・里地水辺のゆたかな自然を次世代へ」

#### ② 趣 旨

今年、2016 年、生き物と共生する大崎市が誕生 10 周年を迎え、大崎市品井沼の地名を冠するシナイモツゴが発見 100 周年を迎えました。大崎市のゆたかな自然を象徴する生き物の一つであるシナイモツゴを絶やすことなく保全していくため、節目の年を記念し、市内外から識者を招いて最新知見を紹介いただき、方策を語り合いたいと考えます。

近年、国土の 14%に過ぎない平野部に人口が集中し、さまざまな開発行為や外来種の侵入などにより、多くの生き物が減少し絶滅の危機に陥っています。一方、身近な里山のため池や里地の小川には貴重な動物が驚くほどたくさん生息しています。水中では魚、貝、エビ・カニ、水生昆虫など、岸部ではカエルやサンショウウオそしてこれらを餌とする鳥や哺乳類など、訪れるたびに新たな出会いに感動することができます。里山・里地の水辺の豊かな自然を守り復元するため、私たちは、一貫して科学的な対処方法を開発すると共に、市民・農民レベルでの取り組みを実践してきました。

今回は豊かな自然を次世代へ継承するために、大崎市品井沼の地名を冠する絶滅危惧種シナイモツゴの保全と根本的な対策が急務となっている外来生物対策を中心課題として最新知見の紹介と議論を行うことになりました。

第 1 部では、地域の宝シナイモツゴを次世代へ引き継ぐため、内外で活動している団体や研究者に最新知見や取り組みの実態を紹介していただきます。

第2部では豊かな自然を守るために最重要課題となっている外来生物対策の新技术や知見を報告します。さらに総合討論で地域との連携や技術開発のあり方について広範囲に意見を求めたいと考えます。

是非、ご参集の上、情報および意見交換に加わっていただければ幸いです。

- ③ 主 催： 水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員会、NPO法人シナイモツゴ郷の会  
全国ブラックバス防除市民ネットワーク、旧品井沼周辺ため池群自然再生協議会、ナマズのがっこう
- ④ 後 援（調整中）：宮城県北部地方振興事務所、大崎市、大崎市教育委員会、JA みどりの、公益財団法人 東洋ゴムグループ環境保護基金
- ⑤ 場 所： 宮城県大崎合同庁舎 1F 会議室（宮城県大崎市古川旭4丁目）
- ⑥ 日 時： 2016年11月26日（土）9：30～17：00
- ⑦ 展 示： アメリカザリガニ連続捕獲装置、アメリカザリガニ魚醬、水田魚道  
シナイモツゴ、ゼニタナゴなど水槽展示、活動写真ポスター、出版書籍など

## 次 第

趣旨説明 二宮景喜（シナイモツゴ郷の会理事長）……

後援団体挨拶 伊藤康志 市長（大崎市）……

## 第1部 シナイモツゴ保全の現状と課題 9：30～12：30

進行 佐藤弘樹（シナイモツゴ郷の会）

### (1) 全国の生息実態と課題 (45分)

- ・小西 繭（信州大）：繁栄と衰退の歴史に学ぶ保全の方向性

### (2) 地域における保全の取り組み (15分×3)

- ・二宮景喜（シナイモツゴ郷の会）：旧品井沼周辺の保全活動
- ・五十嵐正俊（青森やぶなべ会）：青森の生息状況と保全活動
- ・田村広野・石川訓子（新潟市水族館マリニピア日本海）：水族館での保存活動

### (3) 地域ぐるみの保全活動 (10分×4)

- ・西澤誠弘（伸萌ふゆみずたんぼ生産組合 事務局長）：生き物ブランド米と自然再生
- ・吉田千代志（シナイモツゴ郷の米づくり手の会 会長）：生き物ブランド米でシナイモツゴ生息池を守る
  - ・伊藤芳晴（鹿島台小学校）：里親活動でシナイモツゴを増やす
  - ・平山周作（大崎市産業振興局 局長）：大崎市の取り組み

### (4) 重要な地域の取り組み（コメンテーター講評）(10分)

- ・藤本泰文（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

### (5) 自由討論 (20分)

- ・座長 佐藤弘樹（シナイモツゴ郷の会）

### \*展示コーナーの概略説明 (2分×3)

- ・高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）  
：アメリカザリガニ連続捕獲装置－実物を初公開…
- ・坂本 啓（シナイモツゴ郷の会）  
：アメリカザリガニの有効活用－魚醬 V2 など…
- ・三塚牧人（ナマズのがっこう）  
：水田魚道実物の公開展示（屋外広場）…



## 第2部 里山・里地のにぎわいをとりもどす外来種の防除

13:30~17:00

進行 久保田龍二(シナイモツゴ郷の会)

### (1) 侵略的外来種の効果的な防除をめざして (20分×3)

・西川 潮 (金沢大学)

：オオクチバスとアメリカザリガニの生態系に及ぼす影響・・・

・小林 光 (全国ブラックバス防除市民ネットワーク)・天野隆雄 (三ツ池公園を活用する会)：オオクチバス防除の課題と展望

・高橋清孝 (シナイモツゴ郷の会)

：里山・里地の水辺における侵略的外来種の総合的防除・・・

### (2) 急がれるアメリカザリガニ対策 (15分×4)

・林 紀男 (千葉県博物館)

：植物への影響と対策・・・・・・・・・・

・荻部治紀 (神奈川県博物館)：水生昆虫への影響と対策・・・・・・・・・・

・中田和義 (岡山大学)：好適サイズの人工巣穴によるアメリカザリガニの捕獲駆除効果の検討・・・・・・

・高橋清孝・浅野功・長谷川政智<sup>○</sup>・久保田龍二 (シナイモツゴ郷の会)：連続捕獲装置の開発と集中捕獲・・・・・・

### \*休憩 (15分)

### (3) 先進的実践事例 (15分×2)

・佐藤良平 (久保川イーハートープ)：ウシガエルの防除と効果

・八木 愛 (生態工房)：井の頭公園池のアメリカザリガニ対策・・・

### (4) 侵略的外来種対策と希少魚の保全(コメンテーター講評) (15分)

・森 誠一 (岐阜経済大学)

### (5) 総合討論 (30分)

・座長 半沢裕子 (手賀沼水生生物研究会)

シナイモツゴ発見100周年・大崎市政10周年記念共同シンポジウム  
里山・里地水辺のゆたかな自然を次世代へ

2016年11月26日(土) 9:30~17:00  
会場：宮城県大崎合同庁舎 (宮城県大崎市古川旭4丁目、JR古川駅から徒歩10分)

第1部 シナイモツゴ保全の現状と課題 9:30-12:15

【全国の生態系と課題】  
筑紫と環境の歴史に学ぶ保全の方向性 小西 爾 (香州大学)

【地域における保全の取り組み】  
旧品井沼周辺の保全活動 二宮 景喜 (シナイモツゴ郷の会)  
青森の生態状況と保全活動 五十嵐 正俊 (青森やぶなべ会)  
新潟の生態状況と保全活動 田村 広野 (新潟市水族館マリンピア日本海)

【地域ぐるみの保全活動】  
生き物ブランド米と自然再生 西澤 靖弘 (柿崎ふゆみずたんぼ生産組合)  
生き物ブランド米でシナイモツゴ生態池を守る 吉田千 代志 (シナイモツゴ郷の米づくり会の会)  
産産活動でシナイモツゴを増やす 鹿島台小学校  
大崎市の取り組み 平山 周作 (大崎市産業振興局)

【重要な地域での取り組み(コメンテーター講評)】藤本 泰文 (伊豆沼・内沼環境保全財団)

【自由討論】 座長：佐藤弘樹 (シナイモツゴ郷の会)

第2部 里山・里地のにぎわいをとりもどす外来種の防除 13:30-17:00

【侵略的外来種の効果的な防除をめざして】  
オオクチバスとアメリカザリガニの生態系に及ぼす影響 西川 潮 (金沢大学)  
オオクチバス防除の課題と展望 小林 光 (全国ブラックバス防除市民ネットワーク)  
里山・里地の水辺における侵略的外来種の総合的防除 高橋 清孝 (シナイモツゴ郷の会)

【急がれるアメリカザリガニ対策】  
植物への影響と対策 林 紀男 (千葉県博物館)  
水生昆虫への影響と対策 荻部 治紀 (神奈川県博物館)  
好適サイズの人工巣穴によるアメリカザリガニの捕獲駆除効果の検討 中田 和義 (岡山大学)  
連続捕獲装置の開発と集中捕獲 高橋清孝・浅野功・長谷川政智<sup>○</sup>・久保田龍二 (シナイモツゴ郷の会)

【先進的実践事例】  
ウシガエルの防除と効果 佐藤 良平 (久保川イーハートープ自然再生協議会)  
井の頭公園池のアメリカザリガニ対策 八木 愛 (生態工房)

【侵略的外来種対策と希少魚の保全(コメンテーター講評)】 森 誠一 (岐阜経済大学)

【総合討論】 座長：半沢裕子 (全国ブラックバス防除市民ネットワーク)

主催：本道の自然再生共同「おぼろ」実行委員会、NPO法人「おぼろ」等の会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク、旧品井沼周辺ため池自然再生協議会、おぼろのがっこう 後援：大崎市、大崎教育委員会、J.A.みどりの、東洋ゴムグループ環境保護基金  
お問い合わせ先：シナイモツゴ郷の会 MAIL:kiyotaka-toto@kttf.biglobe.ne.jp



## 「シナイモツゴ放流会」に参加して

木下 文彦

平成 28 年 6 月 9 日（木）、今年で 8 回目になるシナイモツゴ放流会が、鹿島台広長地区のため池で行われました。県内 5 校の里親校（鹿島台小、旧鹿島台二小、東松島市立鳴瀬桜華小、美里町立小牛田小、石巻市立開北小）で大切に育てられた稚魚約 600 尾を放流しました。

当日は薄曇りの天気でしたが、鹿島台小の元気な 4 年生 87 人が 4 台のスクールバスで到着し、雨の心配を吹き飛ばしてくれました。10 時、鹿島台小 4 年生 87 人と先生方、シナイモツゴ郷の米つくり手の会、広長地区の方々、大崎市、大崎市教育委員会、報道関係、郷の会スタッフ等たくさんの方々の参加で、開会行事が始まりました。今年は 1916 年に鹿島台の品井沼でシナイモツゴが見つかって 100 周年になるとのこと。子ども達は一生懸命お話を聞いていました。



「げんきにそだてー」

放流した稚魚は、昨年 6 月卵の状態から体長 3 ～ 8 センチメートルほどになるまで育ててきたものとのこと。

放流の手順についてのお話があり、いよいよ待ちに待った放流です。スタッフがバケツに 4, 5 尾ずつ入れたシナイモツゴを児童が一人一人放流しました。児童は、「元気に大きく育って。」「けんかしないで仲良くしてね。」「ザリガニに食べられないでね。」等、思い思いに声をかけながら放流していました。先生方やシナイモツゴ郷の米つくり手の会会長さん、広長地区の方々、鹿島台教育支所長さん、報道関係の方々にも放流していただきました。



「わかった人ー」「ハーイ」

放流後、シナイモツゴの現地学習会では、二宮理事長からシナイモツゴに関するクイズも出されました。代表の児童が正解するたびに、大きな歓声が上がリ、楽しい雰囲気の中で閉会しました。

私は放流会に初めて参加しました。閉会行事で発表した児童の感想を聞きながら、シナイモツゴを通して学習した子ども達が、様々な生活環境を守る担い手に育っていくのだろうと思いました。

# 2016 年里親活動の報告

二 宮 景 喜

里親の小学校と協力しながら、里親活動を続けていますが、最近数年間は今後の活動の継続に影響を与えそうな変化が出ていますので、それを含めながら今年の春から現在までの里親活動について報告します。

今年の活動は、3月の鹿島台二小の稚魚を鹿島台小の飼育池に移動させることから始まりました。鹿島台二小は2011年から5年間、模式産地の品井沼に最も近い里親校として熱心に活動し、大きな成果を上げていただきましたが、4月から鹿島台小に統合されることになり、二小での里親活動は鹿島台小の活動の中に引き継がれることになりました。このため、2016年度は鹿島台小、鳴瀬桜華小、小牛田小、石巻開北小と1校減の4校体制でスタートしました。

里親校の毎年の活動で大事にしていることは、事前にシナイモツゴについての学習をして、子供たちの手で前年度の稚魚を放流用に回収し、新たな稚魚のための池の準備をすることです。そのための日程調整が最初に必要ですが、今年も4月20日過ぎから各学校への挨拶と打ち合わせを兼ねて、4校を訪問しました。

新学期の諸行事で忙しい中で、いくつかの基本作業を日程に組み入れてもらうことは本当に容易なことではありませんが、4校については、お互いにわかりあっていることもあり、実施日の微調整だけで実施できるようになっています。授業のやり方、池掃除などについては、里親校の希望もあり、やり方が一律ではありませんが、学校ごとのパターンにもお互いに慣れていきますので、この点でも数年前よりは取り組みやすくなっています。

その予定表に基づいて、5月25日に鳴瀬桜華小で授業と稚魚の回収と池掃除、5月26日と30日には鹿島台小と小牛田小で授業。6月3日には、鹿島台小で稚魚の回収と池掃除を郷の会の会員と子供たちが一緒に行いました。小牛田小については池の準備、開北小については授業も含めて先生方をお願いしましたが、例年通りということで、こちらのお願い通りにやっていただきました。

しかし、今、里親活動の抱える問題点は、我々の側の人手不足です。里親校が4校体制と少なくなり、作業その他のパターン化で作業量、必要人数は計算できるのですが、最近では里親活動に参加する人が限られ、人のやりくりにもまったく余裕がなくなっています。お互いに交代しながら、また都合をつけながらやれるように、もっと多くの人に参加していただきたいと思っています。



飼育池の準備はととのいました



シナイモツゴについて学習します



もう一つの問題点は、卵の確保と繁殖池の下準備です。各校の繁殖池については、ふ化直後の仔魚のえさとなる植物プランクトンを沸かせることが必要ですが、塩釜の丹野さんに作っていただいた液肥とグリーンウォーターを、池の準備ができ次第、各校の繁殖池に投入しております。まだ試行錯誤している部分がありますが、今のところ作業も容易で、失敗もない良い方法です。

次に、シナイモツゴの卵の移植ですが、山間にある採取池でポットに産み付けられた卵を採取して学校の池へ運ぶまでのタイミングが難しく、いつも苦労してきましたが、昨年からエアレーションを活用することで、バケツの中で数日間観察しながら、頃合いを見て学校へ持っていけるようになりました。そのために採取する日を週2回程度に減らすなど、以前よりも楽になりました。それでも、学校の繁殖池の受け入れ態勢が整う6月10日過ぎは、産卵のピークを過ぎていきますので、卵の確保に苦労します。特に最近シナイ



慎重に池に卵を移します

モツゴの産卵のピークが早まってきた感があり、学校の新学期の日程を考えると、無理はありますが、学校池への移植をもう少し早めて、6月初旬までには完了できないかと苦慮しているところです。

ともあれ、昨年から今年にかけて育てたシナイモツゴは、鹿島台小（二小分も含めて）430尾、鳴瀬桜華小191尾など4校合わせて約700尾となり、まずまずの数を確保できました。6月12日、鹿島台小の4年生全員が里親校の代表として、鹿島台広長地内のため池に約600尾を放流しました。当日は新聞社、テレビ局など7社が取材に訪れ、子供たちのコメントを入れて報道していただきました。

いろいろ心配はありますが、里親活動は、予定通りに進んでいます。今は繁殖池にいる新しい稚魚が今年の猛暑の中、無事に育ってくれることを祈っているところです。

さて、シナイモツゴの繁殖については、昨年までは小学校だけで行ってきましたが、今年は、画期的な取り組みになりますが、大崎市田尻にあるケミコン宮城株式会社さんにシナイモツゴの里親に名乗りを上げていただきました。6月初めにお話があり、担当で現地を訪問し、活動について話し合ってきましたが、工場内にある池の一部でシナイモツゴを育てる里親になる方向で話がまとまり、企業会員として郷の会に入会していただきました。卵からの飼育を試みましたが、開始時期が7月初めとなり、十分な卵の確保ができず、今年についてはまず成魚約50尾を育てていただいております。来年からは卵からの飼育を試みていただきますが、学校よりは早く飼育体制に入ることができますので、よい成果を上げていただけるものと期待しています。また里親活動の新しい形となりますので、ぜひ成功していただきたく、本会としても大きな期待があります。



ケミコン宮城工場内の飼育池

社会貢献のひとつとして自然環境を守る活動に企業さんに参加していただくことは大変ありがたいことです。当会としてもできるだけ協力体制を整えていきたいと思っております。

# 宮城県大崎市かしまだい さと まい シナイモツゴ郷の米通信

**新品種ささ結・ひとめぼれの「郷の米」新米を収穫しました！**

お陰様で「かしまだいシナイモツゴ郷の米」の刈り取りも終わり、今年も良食味のお米が収穫出来たことに会員一同感謝しております。

郷の米は、きれいな水を使用し減農薬・減化学肥料で栽培した、お米本来の粘り・香り・味が堪能できる、地域の想いが詰まったお米です。

発足九年目を迎え、本年も「ひとめぼれ」に加えて新品種である「ささ結(むすび)」にも取り組み、お陰様で高品質米である認証もいち早く受け、いよいよ10月1日より販売開始となりました。

小さな取り組みでもご理解を深めて頂いていることに心から感謝申し上げます。

本年も皆様のご愛顧どうぞ  
よろしくお願いたします。 会員一同



## ～新品種 ささ結 (むすび) ～

宮城県大崎市では、水稲新品種の東北194号を愛称「ささ結」と名付け、平成27年産米より本格的栽培に取り組んでいます。

母をササニシキ、父をひとめぼれとして交配され、食味はササニシキのようなあっさりとした食感で、食べ飽きないおいしさです。

また、冷めても固くなりにくい特性から、おにぎり・弁当・和食には抜群の適性があり、炊飯時には洗った後に1時間～1時間半ほど浸水してから炊くとさらに美味しく頂けます。

なお、「ささ結」の認証基準は、①大崎市内JJAの環境保全米基準(減農薬・減化学肥料)の栽培②土づくりを基本とする追肥なしでの栽培で食味を重視③タンパク含有量を6.5%以下とするなどの内容となっています。

シナイモツゴ郷の米は、天然のミネラルシナイモツゴの湧き水に育ち、自然の恵みで育ちます。



## シナイモツゴ郷の米の取り組み



①天然記念物シナイモツゴがすむ「ため池」の草刈り・池干し・補修作業など、環境保全活動に取り組んでいます。



②子ども達によるシナイモツゴの放流会を毎年開催。



③郷の米で利用する農業用水の水質調査を、シナイモツゴ郷の会が実施。(年2回)



④減農薬・減化学肥料で栽培した「ひとめぼれ・ささ結」。後は刈り取りを待つばかり！



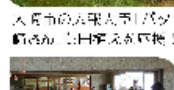
⑤収穫後、丁寧に乾燥・調製します。

平成28年産新米のご注文は、お電話・FAX・Eメールでも承ります。

## 自然環境イベントなどの様子



郷の米が栽培されている地域は自然環境に恵まれ、毎年、地元大崎市が主催する「おおさき生きものクラブ」には多くの子ども達が参加します。



自然の素晴らしさや、お米の栽培方法を知ってもらおう事は、私たちにとても大きな励みとなります。



これからもしっかりとした米づくりを心がけ、今後も安全で安心な「シナイモツゴ郷の米」に取り組めます！

## シナイモツゴ郷の米「7つの約束」

1. 環境保全米(減農薬・減化学肥料)での栽培。
2. 「NPO法人シナイモツゴ郷の会」の認証制度で認められた農業用水を使用。
3. 検査基準は1等米品質。
4. 玄米での販売は、色彩選別してお届けします。
5. 「つくり手の会」から、産地直送・産地販売。
6. 環境保全活動を継続的にやっている。
7. 地域を誇り続ける強い信念。

## 郷の米実績報告

◇農薬・化学肥料削減栽培米(農林水産省ガイドライン) ◇第三者機関であるNPO法人の水質・水系認証米  
◇出荷米検査で全量1等米(環境保全米ひとめぼれ・環境保全米ささ結) ◇玄米出荷は色彩選別機使用  
◆大崎市「こだわり農産物」認証米(平成23年度～) ◆大崎市自然共生三志米 ◆大崎市「ささ結」ブランド  
認証米(平成27年度～) ☆市民病院食用米(平成21年度) ☆市内学校給食用米(平成23年度・平成26年度)

## ●つくる人・食べる人・みんなの力で地域の環境と農業を守り続けるために！

■お申し込み・お問い合わせは「かしまだいシナイモツゴ郷の米づくり手の会」事務局 今野まで

〒989-4104 宮城県大崎市鹿島台店長字中道西38

Tel&fax/ 050-1531-3774 e-mail/ bantam41@gmail.com



ホームページは近日更新！

<http://satonomai.jp/>





# FAX 送信票 050-1531-3774

宮城県大崎市

申込日 年 月 日

**かしまだいの米 平成28年産 新米注文書**

限定100俵 ご注文はお早めに！ 減農薬・減化学肥料栽培 ささ結・ひとめぼれ

|       |           |  |  |          |  |       |
|-------|-----------|--|--|----------|--|-------|
| お申込み者 | 〒         |  |  | ご住所      |  |       |
|       | お名前(ふりがな) |  |  | 電話番号     |  | FAX番号 |
|       | 様         |  |  |          |  |       |
|       |           |  |  | Eメールアドレス |  |       |

## □数量及び価格(円・税込)

| キロ数                        | ささ結・ひとめぼれ<br>白米価格                 | ご注文数             | ささ結・ひとめぼれ<br>玄米価格 | ご注文数             | 発送には、宅配用米箱代が加算されます。 |
|----------------------------|-----------------------------------|------------------|-------------------|------------------|---------------------|
| 5 kg                       | 2,200                             | ささ結 袋<br>ひとめぼれ 袋 | 2,000             | ささ結 袋<br>ひとめぼれ 袋 |                     |
| 10 kg                      | 4,400                             | ささ結 袋<br>ひとめぼれ 袋 | 4,000             | ささ結 袋<br>ひとめぼれ 袋 |                     |
| 30 kg                      | 13,200                            | ささ結 袋<br>ひとめぼれ 袋 | 12,000            | ささ結 袋<br>ひとめぼれ 袋 |                     |
| 食べ比べセット<br>(白米)            | 4,400                             | セット              |                   |                  |                     |
|                            | ささ結・ひとめぼれ 各5kg                    |                  |                   |                  |                     |
| かしまだいの<br>うまいもんセット<br>(白米) | 2,780                             | 箱                |                   |                  |                     |
|                            | ささ結・ひとめぼれ 各2kg<br>デリシャストマトジュース 2缶 |                  |                   |                  |                     |



ささ結むすび 5kg



ひとめぼれ 5kg



食べ比べセット  
(ささ結・ひとめぼれ 各5kg)



かしまだいのうまいもんセット  
(ささ結・ひとめぼれ 各2kg・  
デリシャストマトジュース 2缶)  
\*化粧箱入り

## ■贈答用お届け先

\*お届け先が足りない場合は別紙に内訳をお書き下さい。

|   | お名前(ふりがな) | 〒 | ご住所      | 種類・数量                    |
|---|-----------|---|----------|--------------------------|
| 1 | 様         | 〒 | 電話番号 ( ) | ささ結・ひとめぼれ<br>白米・玄米<br>kg |
| 2 | 様         | 〒 | 電話番号 ( ) | ささ結・ひとめぼれ<br>白米・玄米<br>kg |

メモ欄(のし紙・発送希望日等、ご希望があればご記入ください。)

\*代金の支払方法 1 代金引換 2 銀行振込 (ご希望の番号に丸印を付けてください。)

\*代金引換には、手数料が加算されます。( \*1万円以下324円 \*3万円以下432円 \*10万円以下648円)

\*銀行振込のお客様は、ご入金が確認され次第ご発送いたします。

\*【振込先】・みどりの農業協同組合鹿島台支店・普通 0058251・口座名 シナイモツゴサトノマイツクリテナカイ

## ■送料代金(円・税込)

| 重量    | 東北  | 北海道 | 関東<br>信越 | 東海<br>北陸 | 関西  | 中国    | 四国    | 九州    | 沖縄 |
|-------|-----|-----|----------|----------|-----|-------|-------|-------|----|
| 5 kg  | 710 | 870 | 710      | 810      | 870 | 1,140 | 1,250 | 1,350 | 照会 |
| 10 kg | 710 | 920 | 810      | 870      | 920 | 1,250 | 1,350 | 1,460 | 照会 |

※20kg・30kg  
など、お安くなる  
場合があります  
のでお問い合わせ  
下さい。

\*発送には、送料代金と宅配用米箱代が加算されます。(箱代 \*5kg~10kg120円 \*30kgまで220円)

■お申し込みは「かしまだいの米つくり手の会」販売担当 今野 まで。

〒989-4104 宮城県大崎市鹿島台広長字中道西38 TEL&FAX/050-1531-3774

| 事務局<br>使用欄 | 注文番号 | 価格 | 箱代 | 送料 | 合計 | 備考 |
|------------|------|----|----|----|----|----|
|            |      | 円  | 円  | 円  | 円  |    |

# アメリカザリガニ駆除に参加して

シナイモツゴ郷の会 浅野 功

私がアメリカザリガニ駆除に本格的に参加し始めたころは、捕獲網（アナゴカゴ）に餌を入れて誘引しての捕獲でした。昨年（2015年）8月から高橋副理事長が省力化と効率化ができないかと自動給餌方式を考え、市販のペット用自動給餌器を改良して自動でアメリカザリガニの捕獲器に餌を落とし込む自動給餌方式によるアメリカザリガニ連続捕獲装置を考案されました。日曜大工の好きな私に自動給餌器および収納ボックスの加工と設置のための架台の試作の相談があり、ホームセンターへ終日通って部材を探し、十分ではないながらも高橋副理事長のイメージに近いものを製作することができました。一方、高橋副理事長の方は、アメリカザリガニの習性を利用した肝心要の捕獲装置のアメリカザリガニ



を誘引し、侵入したら逃げ出さない仕組みを市販の安価な部材を組み合わせで制作されました。連続捕獲器は誘引工夫が施され入ったら出られない構造で優れものと感じました。捕獲網駆除と並行して自動給餌器による連続捕獲装置の実験が始まり、一週間に3回自動で餌を落とし込み、毎土曜日、捕獲回収、自動給餌器への餌のセットをするため、私も駆除作業に参加するようになりました。その給餌器はナイロンワイヤーに餌を吊るしフックで外す仕

掛けですが、時には落ちていないこともあり、担当した私にとって一喜一憂の心境でした。昨年中に自動給餌器も1台から3台に増設し、今年になって5台となりましたが、高橋副理事長が更に省力化、効率化へと思考を凝らし、指定した時間に定量の餌が落ちる自動給餌器をWebで調べ探し出し現在はその方式のものを9台設置して駆除を行っています。餌も補充のみ





で容易になり、作動の方も安定し、省力化と効率化が以前と比べ物にならないくらい改善されました。

作業については通常3、4人で当初3か所のため池で行い、毎土曜日朝9時頃から2時半遅い時には4時過ぎ頃まで池の中を歩き回って仕掛けておいた捕獲網や捕獲器を順に引き揚げ捕獲したザリガニを駆除して



いました。捕獲駆除だけではなく調査も伴い高橋副理事長が一匹ずつ雄雌等の判定をして、もう一人が記録しデータ蓄積し後に分析作業も行うもので、専門性を必要とするものでなかなかできるものではなく、私は餌の補給、捕獲器の着脱等の補助作業に専念していました。参加し始めた頃は、体力不足のシニアの私にとって大変ハードな作業でしたが、しかし、駆除活動の回数をこなすと共に体力増進にも繋がり今では何とか皆さんと一緒に作業を行っています。当初の私は、ため池を胴長着用して長時間動く経験がなかったので、土手で滑って転んだり、水中でよろけそうになったり、かがみすぎて胴長に水が入ってきたりで大変でした。今ではため池へのアプローチが長く階段状の坂道となっていて、そこでの上りが体調のバロメーターとなっていますが、車に用具等の忘れ物をすると再度上り下りをし、悲惨なことになった事も幾度となく……。また、恥ずかしいことですが、蛇が苦手な私にとって、いかにシーズン中、蛇を見ないで過ごせればと願っていましたが、最初の作業日からお目にかかってしまいました。また、ため池を悠々と泳ぐ姿を見せられ、極めつけは6月の作業中、高橋副理事長から「浅野さん、後ろ、後ろ」と声をかけられ振り向くと、大きな蛇が親しげに私の方に泳ぎ寄ってきました。距離はあったものの、牛若さながら私は飛び跳ねて急いで岸に上がり、その様子は周りでは大爆笑ものでした。また、何度と行った捕獲作業を経験していくうちに、容器の沢山のアメリカザリガニの中に手を入れることや、ましてや素手で捕まえること、さらにはヤブコギ（茂った草や笹の中を歩くこと。）なども抵抗がなくなり、遅かりしワイルド化ができたように思いました。

春先から駆除が始まり、胴長に直にため池のまだ冷たい水温を感じながらの作業。春爛漫の陽気の中では桜や草花を愛でながら自然にどっぷりといった中での作業。夏は太陽が照りつけ顔や腕などくっきり日焼け、熱中症に気を付けながらの作業。現在は幾分水温が冷たく感じながらも、間もなく紅葉を愛でながらの作業。毎回アメリカザリガニがバケツ2杯もの数が獲れ、駆除活動の効果により、生息調査では多数のシナイモツゴやゼニタナゴが必ず見ることができ、かなり増えていると実感しています。駆除活動を続けることでシナイモツゴ、ゼニタナゴやその他の水生動植物にとっても良い環境が保たれ、豊かな自然再生に繋がる活動と思っています。自然活動に興味をお持ちの方は一緒に活動をしてみませんか。ワイルドになってみませんか？

## 移動研修会「里山と浄土庭園」

門間 忠良

恒例の移動研修会が、4月30日(土)「一関久保川の自然と毛越寺史跡めぐり」をテーマに開かれました。当日は好天に恵まれ、久保川に沿った里山は、オオヤマサクラが咲きコナラが若葉をつけそれぞれの色彩が溶け合うようで

「春山、淡泊にして笑うがごとし」の言葉を思い起こしました。「久保川イーハトーブ」に着いたのは10時頃、「知勝院」のご住職に出迎えていただきました。出自が、隣の美里町南郷福ヶ袋と名乗られビックリ、さらにご長男のお嫁さんが、鹿島台酬恩寺のご息女ということでまたまたビックリしてから、お話を伺う羽目になりました。

始めに研究室兼資料館に案内され、かつて久保



川一帯に落葉広葉樹林が広がり、水田や湿地に恵まれ、生物多様性に富んだ環境であったことを話されました。水槽の中には、シナイモツゴやフナ、沼エビが泳ぎ、ミスジゲンゴロウが、水槽の中を上にあがったり下にもぐったり大忙しそうに行き来しておりました。昆虫の標本は、きれいに整理され見やすく、ヒョウモンチョウやハッチョウトンボなど、目にすることが少なくなった虫も見ることができました。久保川流域わ

ずか9Kmの範囲の中にトンボの種類だけで、現在66種確認できています。

次に農業者の高齢化、後継者不足、耕作地の放棄の等により、里山が管理されなくなった地域を復元するための手立てや足跡を説明して頂くために、外に出ました。「まず始めたことは、林床に光を当てることでした」と、ご住職は話し始めました。生活の変化により伐採更新が行われなくなった森の木の間伐を行い、邪魔な蔓を伐採し、笹の下刈りをして風通しの良い明るい林に変えたそうです。そのためもともと自生していた生命が復元再生され、失われたと思っていたカタクリ、ヒトリシズカ、イチゲ、チゴユリ、エゾタンポポ、スミレなどの花々が、競うように咲き始めています。

小さな沢を渡り、ビオトープに案内されました。こ





の場所は開田された跡地でしたが、栗駒山の溶岩流が作り出した丘陵地帯のため、水持ちが悪いために耕作放棄された田んぼです。現在、基底部にビニールシートを二重に敷いて湛水しています。アカショウビンやカワセミから淡水魚や水生昆虫を守るため、浮島を作って浮かべ隠れ場所にしています。池のふちをめぐり、谷間を上り、林の中を歩きながら「これから、地域住民はもとより、NPO や都市住民との協働による活動を通して、久保川地域の保全と再生を果たしていきたい。ウシガエル排除も、重点的に行っていきたい」等々、説明して頂きました。辞去した時は、予定時間を 30 分も過ぎておりました。

昼食は、「道の駅厳美溪」でいただきました。九つに分けられた区画の中に 8 種類の餅(真ん中は大根おろし)があり、初めて口にしたのは稲荷餅(油揚げの中に餅入り)でした。毛越寺の駐車場から、爪先上がりの路を行くと山門に着きます。奥大道を北上してきた京都方面の旅人が、都市平泉に足を踏み入れる路とほぼ同じです。観自在王院の南大門跡は、すぐ東にあります。毛越寺の浄土庭園は、作庭当時の庭に後世の人の手が加わらずに残っています。「夏草や 兵ど

もが 夢の跡」の句碑の前をとおり、広々とした大泉ヶ池の畔に出ます。右手に水面から荒々しく突き出た池中立石と出島の向こうに州浜がやさしい曲線で入り江を形作り、対照させた景趣がおもしろい。中島の向こうにも池の水がひろがり、その向こうは平地で、曲水の宴が催される発掘された鑓水があり、平地がつきたところから山になっています。新緑におおわれたやさしい山であります。州浜と出島に対応する位置に築山石組があり、海岸に迫る岩山を表現しています。池のみぎわを歩きそこに行き、石組から松の大樹



を見上げると深山幽谷の感も味わえます。大泉ヶ池を時計周りにたどり、点在する堂宇や礎石を巡って来たときは、三時を過ぎていました。

今日は、一度手を加えた里山は、人により管理されなければ荒れ地になり、外来種の棲み処になりやすいことを教えられました。また毛越寺では、浄土庭園を巡りながら、古人に思いをはせることができ、よいひと時を過ごすことができた一日でした。

## 2016伊豆沼バスバスターズに参加して

長谷川 政智

2016年、今年も伊豆沼バスバスターズに参加してきました。今年は6回の活動が予定されていましたが沼の水位が増加したため5回の活動となりました。私は今回そのうち、1, 2, 3, 5回目の計4回の活動に参加して来ました。

1回目は、活動を始める前に財団の菊池理事長のあいさつと職員によりこれまでの活動成果が報告されました。報告では人工産卵床によるオオクチバスの産卵床駆除数は2005年ピーク時には252個で産卵が確認されたが2015年にはこれまで最も少ない6個の産卵床駆除数となった事や、ゼニタナゴが伊豆沼で19年ぶりに確認され他の魚類も回復して来ている事が報告されました。また、注意事項として今年は水位が平年より高いため作業に十分注意することや、植物のアシが水に没している状態でブラックバスはアシが密生した中で産卵している可能性が高く、アシの中も注意して観察することなどの指摘がありました。

いよいよ沼へ入り1回目の活動の開始です。人工産卵床の見回りとバス稚魚すくい、アイカゴの設置をみんなで行いました。人工産卵床では1箇所でおオクチバスの産卵が確認できました。稚魚すくいでは3箇所ですぐの群れを見つけ捕獲しました。稚魚の全長は浮上前の1cm未満ととても小さい個体がほとんどでした。この日は、定置網がまだ設置されておらず楽しみなイベントが残念ながら次回にお預けとなりました。



2回目のバスバスターズでは、人工産卵床の見回りで今回も1箇所でおオクチバスの産卵が確認できました。また、前回設置したアイカゴではブルーギルも捕獲されました。稚魚すくいではなんと13箇所ですぐの群れを見つけ捕獲しました。稚魚の全長は浮上前の1cm未満ととても小さい個体がほとんどでした。この日は、定置網がまだ設置されておらず楽しみなイベントが残念ながら次回にお預けとなりました。



捕獲数4万匹を大きく上回ったようです。定置網では小型のブルーギルが7尾捕獲されたほか、外来魚のモツゴ、タイリクバラタナゴや外来種のカワリヌマエビ属エビ、在来種のヌカエビなどが入っていました。

3回目のバスバスターズでは人工産卵床へのブラックバスの産卵は確認されませんでした。アイカゴには環境省により要注意外来生物に指定されているアメリカザリガニが捕獲されたほかカムルチーやニゴイなども入っていました。もちろん本命のブルーギルも捕獲されました。ブラックバスの稚魚すくいでは前回に比べ個体数は少ないものの15mmほどと大きく育った個体が断続的に見つかりました。定置網では、珍しいモクズガニや大きなナマズが姿を見せてくれました。

4回目のバスバスターズには私は参加できませんでしたが人工産卵床にブラックバスの産卵はなく、体長15～30mmの大きさのバス稚魚や小型のブルーギルが捕獲されたようです。

5回目のバスバスターズでは人工産卵床に1箇所でおオクチバスの卵が確認されたほか、いくつか砂利を払った跡も見られました。稚魚すくいでは体長20～35mmの大きさのバス稚魚が単独または数尾の群れで点在しているのをすくい取りました。定置網ではモツゴ、タイリクバラタナゴなどのほかにテナガエビ、ナマズのかわいい幼魚も入りました。



今年は4回のバスバスターズに参加しましたが、毎回伊豆沼の状態の変化を感じることが出来ました。今年は特にバス稚魚の多さに驚かされましたが、他にもオザキノフサモやクロモなどの水生植物が多く見られたことがとても印象に残りました。皆さんもぜひ春の休日にバスバスターズに参加しながら伊豆沼の自然を満喫してみてください。

胴長や網は貸していただけますが、万が一のため着替えはあったほうがいいです！

## 本会会員 元理事 渡邊喜夫さん ご逝去

本会創立以来の会員、元理事 渡邊喜夫さんが8月24日にお亡くなりになりました。



産卵状況を調べる渡邊さん

渡邊さんは本会が発足する前からシナイモツゴの保護、飼育に熱意を持ち、鹿島台小学校の飼育池を毎日見回り魚の世話に当たっていたことは、みなさんご存知のことと思います。

本会の創立に尽力し、その後も長年にわたって本会の諸活動に欠かさず参加するなど、会員また理事として本会を支えていただきました。病を得て、活動から身を引かざるを得なくなったことは、ご本人にとってはさぞ無念なことだったろうと思っています。7月2日のシナイモツゴ郷の会のテレビ放送を楽しみにしていて、病床で放送を嬉しそうに見ておられたということをご家族からうかが

がいました。

長年のご功績に感謝し、いつもニコニコとしておられたお姿を偲びながら、心よりご冥福をお祈りします。 享年 84 歳。

(二宮 記)



## 水辺の仲間たち ―その13―

私が郷の会の活動のためシナイモツゴが生息するため池群周辺に出掛けると様々な植物を目にすることができます。しかし、生育する植物の一部が昔より少なくなったことに気がつきました。その中で植物の個体数が特に少ないものについて紹介したいと思います。

まずサクラソウです。この植物がため池周辺で生育している場所は、ため池に水を供給する沢筋の、冬から早春は光が差し込み、初夏から秋は木漏れ日の差し込む湿地で、シダ類及びスゲ類と混



サクラソウ 2016.5.1 撮影

生しています。サクラソウはサクラソウ科サクラソウ属の多年草で、北海道南部、本州、九州の日の当る湿原や疎林内に生育する。浅く切れ込みの入った楕円形の葉を根元から数枚広げ、5月頃、中央から1本の長い花茎を出して、5つに深く裂けた花径2～3cmの紅紫色の花を数輪咲かせる。葉や茎には白い軟毛が密生している。6月下旬頃には葉が黄ばんで枯れ、夏から秋は休眠します。一時は環境省のレッドリストに絶滅危惧Ⅱ類（VU）で指定されていたが、各地で保全の努力が払われた結果、2007年8月の見直しにより、準絶滅危惧種にランクが下がった。野生種とは別に様々な園芸種があるが、これは江戸時代の中ごろから、実生栽培により様々な品種が作り出され、江戸時代の後半になるとさらに盛んになり、現在の園芸品種に至ります。

つぎに、ノハナショウブ、コオニユリ、ミソハギを紹介します。これらの植物は、ため池から流れ出る水路の脇で放棄された水田が湿地の状態に残された場所に、イ



ノハナショウブ 2016.7.2 撮影

ネ科及びスゲ科植物が優占する中、ノハナショウブ3株、コオニユリが1株自生していまし



た。ミソハギは小群落で4株程生育しています。この場所は定期的に刈り払いによる除草がなされています。

ノハナショウブはアヤメ科の多年草で、北海道、本州、四国、九州の山地の草原や湿地に生育します。葉は剣状。6月末から7月にかけて、高さ0.5～1.0mの花茎を出し、紫色の花を咲かせます。花は基部に黄色い斑をもつ外花被3枚と、小さくて直立する内花被3枚とからなっています。ノハナショウブはハナショウブの原種です。



コオニユリ 2016.8.1 撮影

コオニユリはユリ科の多年草で、北海道、本州、四国、九州の山地の日の当る湿原に生育します。鱗茎はやや球形で白色、食べることができます。茎は高さ1～2mになり、オニユリは暗紫色であるが、コオニユリは緑色で紫色を帯びます。葉は互生し、線状披針形で長さ8～15cm、幅5～12mmほどです。葉のわきにはオニユリのように珠芽が付くことはありません。7～8月ころ、茎の先端に黄赤色の花を下向きにいくつつけます。花被片は6個あり、披針形で上部は反り返り、内側には紫黒色の小点がまばらにあります。

ミソハギはミソハギ科の多年草で、北海道、本州、四国、九州の湿地に生え群生します。根茎は長く地下をはい、茎は直立して上部で枝分かれます。葉は対生し、長さ2～6cm長披針形で、茎にも葉にも毛はありません。7～8月ころ、葉のわきに1cmくらいの紅紫色の花が3～5個集まって穂状に咲きます。花弁は6個。おしべは12個で6個ずつ長さが異なります。



ミソハギ 2016.8.1 撮影

ため池周辺ではこのような植物が見られるので、シナイ

モツゴ、ゼニタナゴ他の貴重な魚類と共に大事に見守り、これらの植物の生育数が増えていくよう、地域の方々と周辺環境を大切にしていきたいと考えています。



## シナイモツゴ BCC 通信 288号 (2016 年 10 月 18 日配信)

**会員の情報共有のための配信メール(1~3回/月)です。**

**受信ご希望の方はご連絡下さい。**

皆さま

寒朝晩の冷え込みが厳しくなってきましたが、お  
かわりありませんか？

あいかわらず週末は数人でアメリカザリガニ駆除  
やゼニタナゴ調査などで里山のため池に通ってい  
ます。今年はアメリカザリガニの自動捕獲装置(連  
続捕獲装置)の開発に重点的に取り組んできました。  
この装置は簡易な自動給餌機を搭載し明暗 2 室の  
収容箱から成り、春以来改良を加え、夏からは 1  
週間の設置により 1 基で 100 尾前後(50~200 尾)  
を捕獲できるようになりました。1 基でアナゴカゴ  
5 個以上の機能があります。

さらに、2014 年から駆除試験を実施しているため  
池では 2015~2016 年にシナイモツゴが爆発的に  
増えています。これまで、アメリカザリガニによっ  
てシナイモツゴの産卵が抑制されていた可能性が  
あります。これらの成果は 11/26 古川 <<...>>  
<<...>> <<...>> 開催のシンポジウムで公表するこ  
とになっています。

シンポジウムの次第と開催要領を添付しますので  
是非ご参加ください。

### イベント情報

1 シナイモツゴ発見 100 周年、大崎市政 10 周年  
記念共同シンポジウム

「里山・里地水辺のゆたかな自然を次世代へ」

期日：11 月 26 日(土) 9:30~17:00

会場：宮城県大崎市合同庁舎

2. シンポジウム文書発送作業

ム・成果報告会

期日：10 月 22 日(土) 9:30~

場所：鹿島台公民館

3. 鹿島台文化祭出展

期日：10 月 29~30 日(土)

会場：鎌田記念館(大崎市鹿島台)

4. 文化祭準備作業

① 展示用魚類採集他 10 月 27 日 9:00 鹿島  
台公民館

② 搬入設営作業他 10 月 28 日 9:00~ 鹿  
島台公民館

5. おおさき環境フェア出展

期日：11 月 12 日(土) 9:30~15:00

会場：大崎市古川総合体育館(大崎市古川)

当会の出展内容：活動紹介ポスター、アメリカザリ  
ガニ連続捕獲装置、ザリガニ魚醤

6. アメリカザリガニ駆除作業 ゼニタナゴ調査

期日：10 月 22 日(土) 9:00

毎週土曜日 9:00 から実施しています。

集合場所：中核ため池

7. シナイモツゴ郷の米販売開始

今年も「ひとめぼれ」と「ささ結び」の 2kg パッ  
クと 5kg パックの販売を開始しました。

購入希望の方はつくり手の会事務局へ申し込んで  
ください。

8. 品井沼ひし販売開始

品井沼ひしの販売を開始しました。

購入希望の方は五十嵐理事へお問い合わせくださ  
い。TEL: 090-3121-0785

9 定例会理事会(毎月第 3 土曜日)

2016 年 3 月 19 日(土) 18:00~

鹿島台公民館(大崎市鹿島台)

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。

小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。